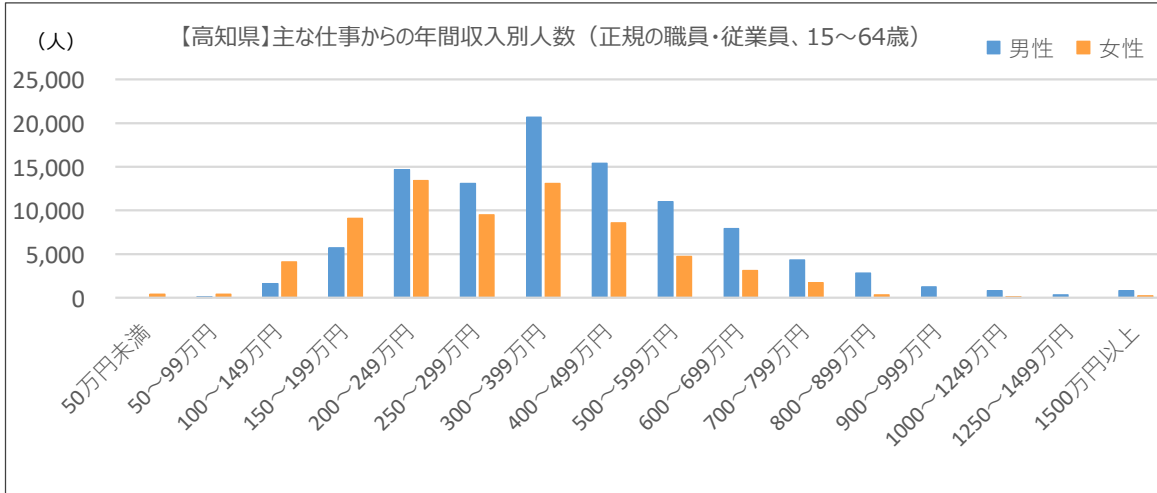


## 高知県における女性の活躍の現状と課題

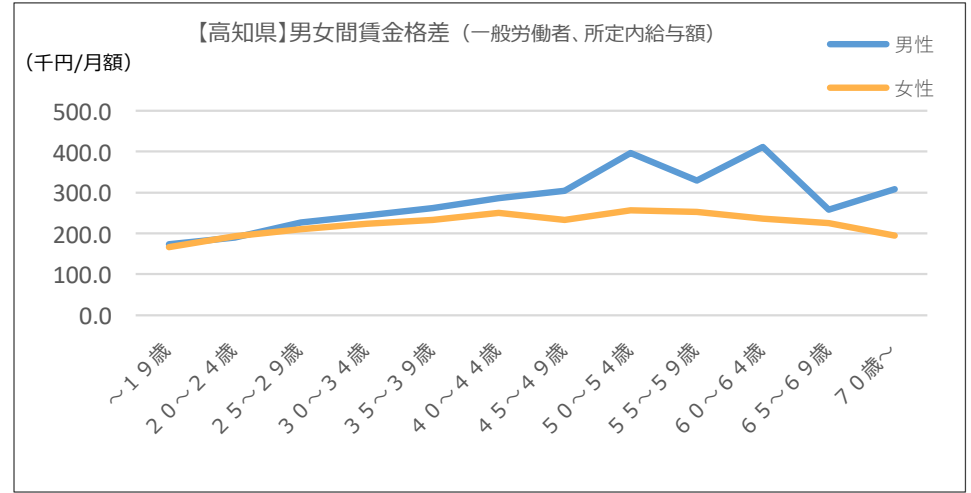
### 課題 ①

**正規雇用者でも男女間の賃金格差があり、一般労働者では女性の賃金は男性の8割に満たない。**



出典/H29就業構造基本調査 第23表

- 正規の職員・従業員の年間収入では、男性では300～399万円が最も多く、次いで400～499万円となっているが、女性は200～249万円が最も多く、次いで300～399万円となっている。

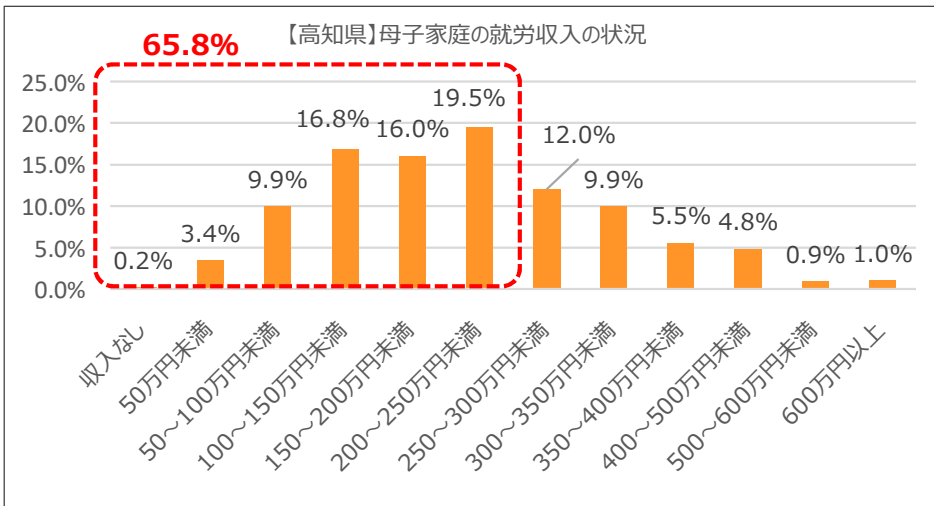


出典/R3賃金構造基本統計調査 都道府県別第1表

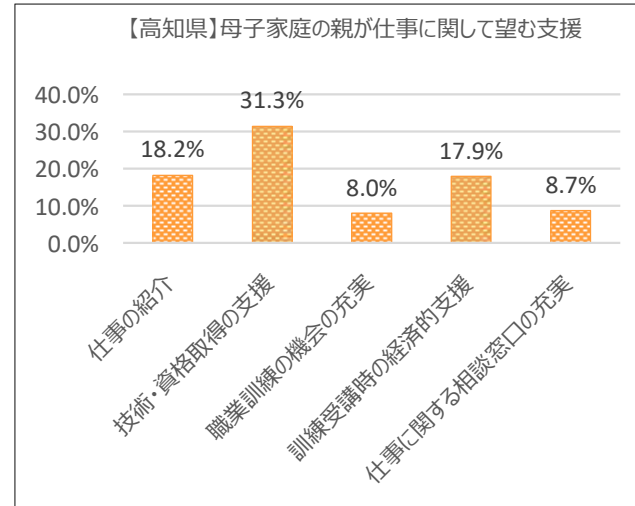
- 一般労働者（所定労働時間または所定労働日数の短い短時間労働者を除く労働者）では、女性の所定内給与額は男性の79.4%にとどまる。

### 課題 ②

**ひとり親家庭では、母子世帯の約65%が年間就労収入250万円未満となっており、約7割が養育費を受け取っておらず、厳しい経済状況に置かれている。**



出典/R3高知県ひとり親家庭等実態調査



【高知】母子家庭の養育費の受給状況

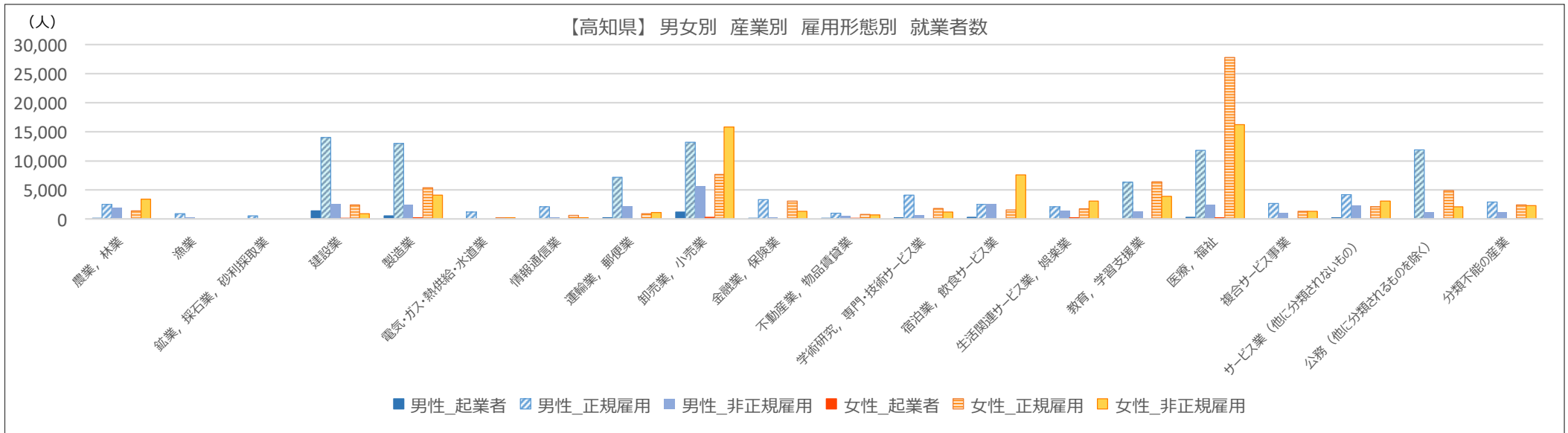
現在受け取っている	25.9%
現在受け取っていない	69.7%
受け取ったことがない	(56.9%)
無回答	4.4%

- 仕事に関して望む支援として、「技術・資格取得の支援」が最も回答が多く、次いで「仕事の紹介」となっている。

# 高知県における女性の活躍の現状と課題

## 課題 ③

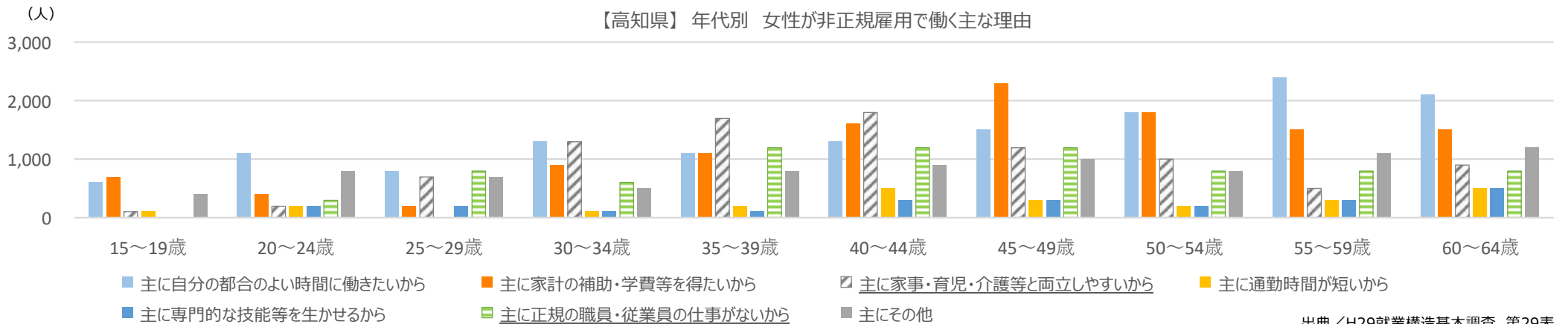
**女性が正規雇用で働いている業種は医療・福祉が突出して多く、男性の正規雇用者に比較して活躍の幅が狭くなっている。**



出典/H29就業構造基本調査 第10-2表

## 課題 ④

**生産年齢人口（15～64歳）の女性の有業率は73.6%（全国7位）と高いが、女性の雇用者のうち非正規雇用の割合が44.3%となっており、30代から40代前半の女性が非正規で働く主な理由は、「家事・育児・介護等と両立しやすいから」が最も多い。**



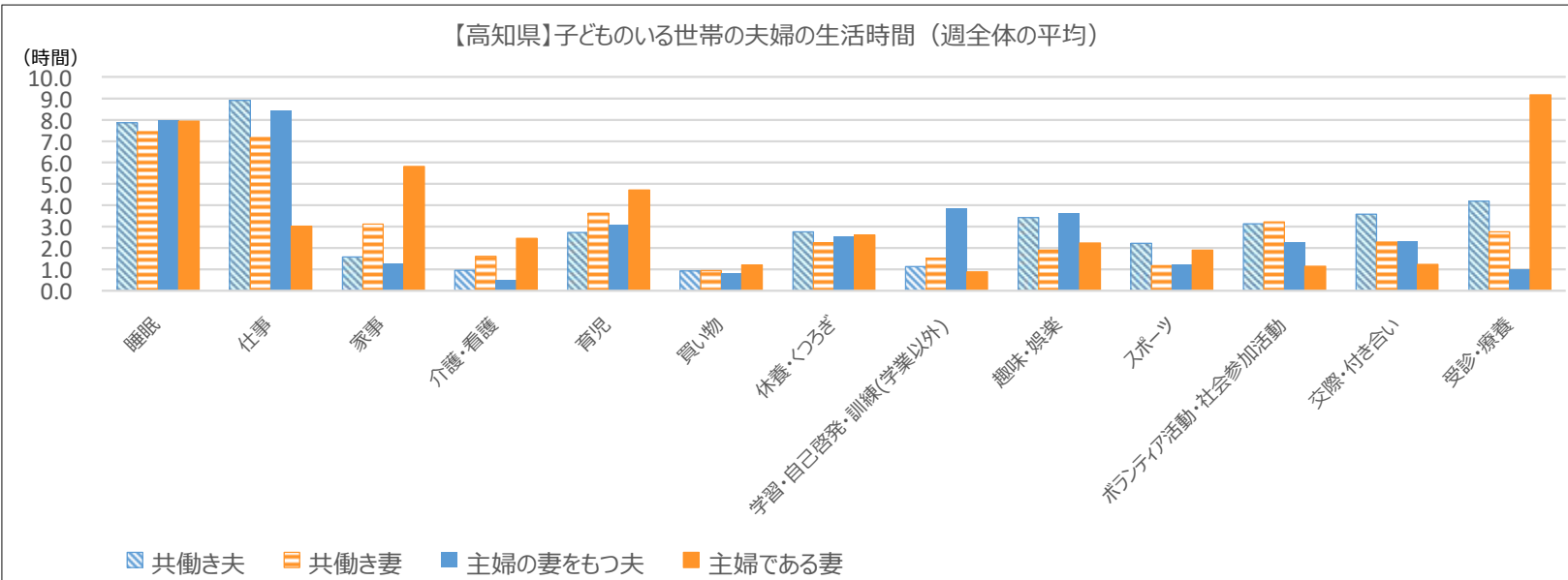
出典/H29就業構造基本調査 第29表

- 20代は「主に自分の都合の良い時間に働きたいから」が多く、30代から40代前半の働き盛りの世代では、「主に家事・育児・介護等と両立しやすいから」の割合が高いため、硬直的な働き方から脱却し、柔軟に働ける職場環境が整備されれば、非正規雇用の女性がより活躍できる可能性がある。
- 30代後半から40代の就職氷河期世代では、「正規の仕事がないから」という理由が他の世代よりも多く、不本意に非正規雇用で働いている状況も見受けられる。

## 高知県における女性の活躍の現状と課題

### 課題 ⑤

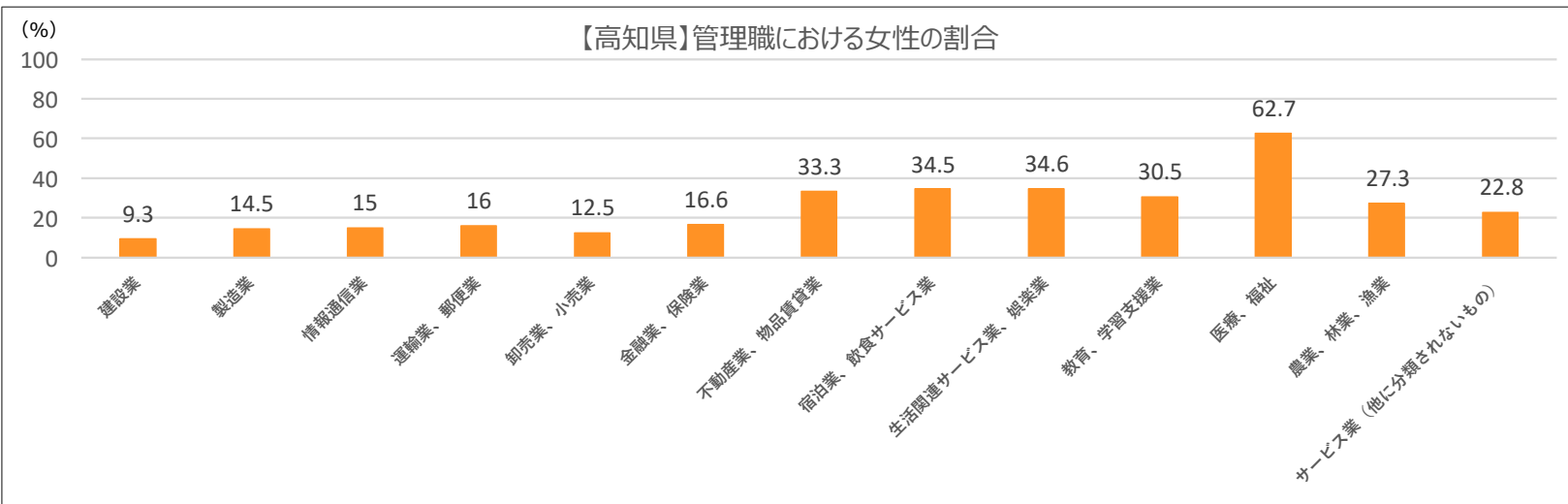
**家庭での家事・育児・介護等の負担は依然として女性に偏っており、固定的な性別役割分担意識が残っていることがうかがえる。**



- 共働きの夫と妻を比較すると、家事は92分、介護・看護は39分、育児は55分、いずれも妻が長くなっている。一方で、仕事は104分、趣味・娯楽は92分、スポーツは63分、交際・付き合いは79分男性が長くなっている。
- 同調査の全国平均値では、家事は129分、介護・看護は35分、育児は80分妻が長く、仕事は159分、趣味・娯楽は40分、スポーツは28分、交際・付き合いは27分男性が長い。
- 高知の男性は、男性の全国平均と比較すると仕事の時間が短い分、家事や育児の時間はやや長い、趣味やスポーツなど自分のための時間も長く、依然として家事・育児等の女性の負担は大きく、固定的な性別役割分担意識が残っていることがうかがえる。

### 課題 ⑥

**管理職に占める女性の割合は27.0%であるが、医療・福祉62.7%に対して建設業9.3%と業種による差が大きい。**



- 医療、福祉以外の業種では、女性の管理職割合が半数を大きく下回り、男性が主に意思決定を行っていると言える。
- 多様性のある組織であることが、人材の流出防止やイノベーションの創出につながるというデータもあり、県内企業の経営発展のためにも、女性管理職の割合を高める必要がある。